

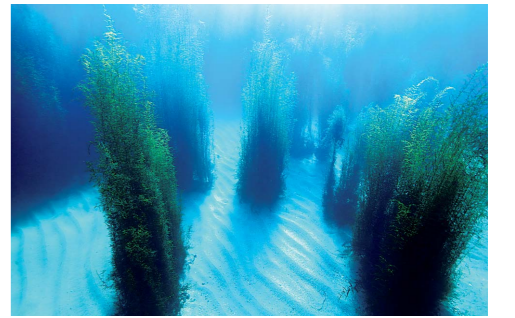
知っているようで知らない「七尾の里海」のこと

七尾の里海は 海藻の森

七尾の里海には多種多様な海藻がすむ。特に松島(能登島野崎町)は種類が豊富だ。潮が適度に流れ、水底には能登の海には珍しいサラサラな白い砂と、岩が点在。このバランスが非常に良いためだといわれている。そして、それらが乱雑に生育しているのではなく、種類ごとに分けられるように、それぞれの適した場所にまとまっている。その様子は、まるで小道や広場が点々と存在する手入れされた日本庭園のよう。そんな見方をする、七尾の里海に興味を湧いてくるのでは…。

海藻の生える 場所と季節

海藻は光合成を行うため、光が十分に届く深さで、透明度の高い場所を好む。
七尾の里海にたくさん生息する海藻(特にホンダワラ)は、陸上の植物と違い、冬から春にかけて成長する。その季節には、おのずと種類と量が増え、



冬の砂紋とホンダワラ(平成26年1月5日撮影)

美しい海藻の森を形成した姿を見ることが出来る。

しかし、素晴らしい光景は、寒い季節ばかりではない。春はアマモ、夏はノトウミヒルモやホソエガサ、秋はホンダワラの新芽など、七尾の里海は、四季折々に生命力にあふれ、季節ごとに海藻を観察する楽しみもある。

観察するには、海に潜る一定の環境が必要。日本海側で冬の時期、海に潜れる地域は少ない。しかし、七尾の里海は、波荒い日本海に位置しているにも関わらず、能登半島が防波堤となり、さらに地形が湾であるため条件がよく、通年の観察が可能となる。

富山湾からの 湧昇流で魚が集まる

七尾の里海の東側は、富山湾に面しているため、養分豊かな湧昇流が流れ込んでいる。これは立山から地面に染み渡った養分豊富な水が地下を通じて富山湾に流れ込むもので、その結果、プランクトンが増え、四季にわたり数多くの魚が集まり、格好の漁場となっている。

絶滅危惧種 (ホソエガサ)

世界中でも、七尾の里海にしか群生していないだろうとされている品種がある。その名はホソエガサ。環境省が作成・公



ホソエガサ(平成26年6月29日撮影)

表したレッドリストに、絶滅の危機にひんしている種として最も高いランクに指定(絶滅危惧種I類)されている。ホソエガサは6月から9月の時期に見られる海藻で、今年も例年になく多く生育している。ホソエガサの生育条件として、二枚貝の殻に生えることから貝が豊富であることや透明度の高さ、きれいな砂地や穏やかな海域が挙げられる。その条件をすべて満たしているのが、七尾の里海である。絶滅危惧種でありながら、多く見られるということは、七尾の里海が、世界に誇れる素晴らしい海域であることの証明でもある。

ナマコの 冬眠ならぬ夏眠

七尾の里海から水揚げされる、代表的な生物と言えはナマコだろう。
そのナマコが冬眠ならぬ、夏眠をすることをご存知だろうか。ナマコは水温10℃以下で活発に活動し、水温25℃以上になると運動や摂餌活動を停止し、夏眠に入るといふ。

海のゆりかご 「アマモ」



アマモの草原(平成24年4月14日撮影)

海草であるアマモは「海のゆりかご」と言われている。アマモが生息している場所は、生き物が卵を産む場所となり、孵化した稚魚の隠れ家となる。しかし、稚魚を餌にしている魚も、その場所がエサ場であることを知っている。海は食物連鎖として捉えた場合、アマモの生息地は、いろいろな生き物の生活の場となり、重要な役割を担っている。

また、アマモは根を張るため、砂の流出を防ぎ、海底の環境を守る役目を果たしている。日本各地でアマモを植え付ける活動が盛んに行われている中、七尾の里海ではその必要がな

七尾の里海の魅力を 感じたドイツ人

こんなエピソードがある。

七尾の里海に魅力を感じたドイツ人から、能登で唯一のダイビングショップである能登島ダイビングリゾートに電話が入った。「今、成田空港に到着して、七尾市に行きたい。七尾の里海を見てみたい」と。いきなりの電話だったため、関係者は半信半疑で電話の対応をした。そして翌日、そのドイツ人は能登島ダイビングリゾートを訪れ、即、七尾の里海に潜った。海から上がったドイツ人は「海藻の葉の色といい、景観といい、

いほど豊かに群生している。七尾の里海に生息するアマモは、桜の開花する時期に、開花し始める。澄んだ水中に花粉が舞い、漂う様子が見られるのも、七尾の里海の特徴である。また、アマモの葉にしか生息できないシヤンテリアクラゲやヒメイカなどの生き物もいる。世界中の海を潜るダイバーの中には「七尾の里海に群生するアマモは、世界中で一番美しい」と絶賛する人もいる。

ホンダワラやホソエガサなどが生息しているこの海は本当に美しく素晴らしい」と絶賛し、能登島を後にした。

実は、そのドイツ人、平成22年10月に愛知県名古屋市中で行われた生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に参加



ホンダワラとメジナ(平成25年9月10日撮影)

するために、日本を訪れたのであった。わざわざ七尾の里海に来た理由も、この会議資料に七尾の里海のことを記されていたため、「ぜひ、自分の目で確かめたかった」と語ったそうだ。

海藻は夏に枯れる

七尾の里海でよく見られる海藻のほとんどはホンダワラ。私たちが七尾の里海をイ



枯れたホンダワラが生えかわり、見事な森が形成される様子(平成25年9月30日撮影)